

グリーン・ツーリズム

—これまでの実践をこれからの発展へ—

日本グリーン・ツーリズムネットワークセンター代表
青木辰司(東洋大学図書館長)

祝！ 世界農業遺産農水省承認！

認定地域：岐阜県長良川上中流域

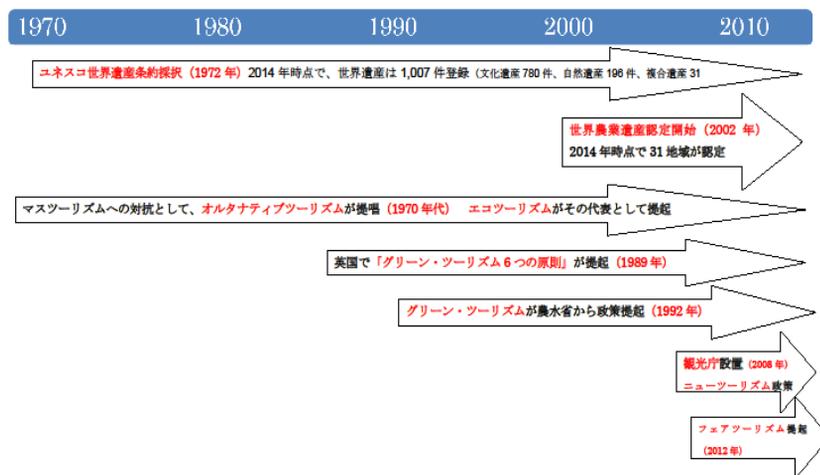
認定テーマ：【里川における人と鮎のつながり】
鮎を中心とした内水面漁業が盛んな長良川は、
流域の人々の日々のくらしや水質保全活動によ
り清らかな流れが保たれ、その清流により鮎が育
ち、地域の人々が鮎からの恩恵を享受。

**人の生活・水環境・漁業資源が相互に関連する
長良川の里川システム。**

なぜグリーン・ツーリズムはこんなに広がったのか？

- 歴史的要因と政策的要因
- 確かな定義とぶれない実践
- 多様な理解と個性的な実践
- 身の丈の実践と相互研修・研鑽
- 「**片務性**」のおもてなしの確かさ
- 「**倫理的消費者**」の顕在化

ツーリズムの動向と世界遺産条約の進展の関係図



正直にお答えください！

あなたはGT活動・政策
・活動・事業に関わって
「儲かった」と思います
か？

「儲かった」とお答えの方！

- なぜ儲かったのですか？
- これからももっと儲けたいですか？
- 適度な受け入れ数とはどのくらい
ですか？
- どのようなお客を大事にしたいですか？
- 地域の内外で連携をしていますか？

「儲かっていない」とお答えの方

- なぜ儲かっていないと思いますか？
- どうしたら儲けられると思いますか？
- 儲けるためには何が必要と思いますか？
- そもそもGTを儲けるために始めたのですか？
- あなたが最も大事にしているものは何ですか？
- 自分の民宿で自慢にできるものがありますか？
- 他の宿に泊まってみて参考になったものがありますか？

「儲け」とは、なんでしょう？

- 「儲け」は何のために必要でしょうか？
- 「儲け」のための条件はなんのでしょうか？
- 「儲け」には何があるのでしょうか？
- 「儲け」が不可欠の価値でなければ、最も大きな価値とはなんのでしょうか？
- グリーン・ツーリズムは「儲かる」のでしょうか？
- 「儲け」がなくとも続く秘訣はあるのでしょうか？
- 岐阜県地域で最もうまく「儲けている人」は誰でしょうか？　そして、日本で？　世界で？

第3段階

サードステージに入ったGTの今後は？

— 持続可能な実践の条件 —

1. **世界農業遺産認定を活かす取組を！**（資源価値）
2. **広域連携のネットワークを太く！**（連携）
3. **実践の質の向上を確保する！**（品質価値）
4. **体験型から体感・協働・交響型へ！**（相互関係）
5. **中間支援機能の充実**（組織・人材育成）
6. **双方向性・双務性の確保**（「非戦略的互惠関係」）
7. **倫理的消費者（善良な旅）の確保**（**歓交人確保**）

マスツーリズム（物見遊山）から 新たな歓交・ツーリズムへ

1970年代以降

マスツーリズムの問題性（環境問題、文化変容）

→ **オルタナティブツーリズム**（「もう一つの観光」）

環境に優しいツーリズム: **エコツーリズム**

農村文化を楽しむツーリズム:

ルーラルツーリズム・グリーン・ツーリズム







「世代間倫理」の確立

- アメリカインディアン・イロクォイ族
会議決議原則（「七世代の掟」）
: 「7世代先への影響」を考慮した判断
- 「子孫に美田を残さず」
→ 「子孫世代のために公共的な資源を
残す」 cf. 管啓次郎著「野生哲学」

「倫理的消費者」を選びつなぐ

- 「100万人の1回」 → 「1000人の10回」
- 「100万人の1時間滞在」
→ 「1000人の10泊」
「量的拡大」 → 「質的向上・深化」
「良い客」「確かな客」とは何か、どのように
して選びつなぐか？

日本のグリーン・ツーリズムの展開過程

- 1992年 農水省が政策導入
(西欧移入段階)
- 1995年 大分県農政部長通達で規制緩和
(日本型創生段階における量的拡大)
東北地区グリーン・ツーリズム・フィールド
スタッフ・ミーティング
- 2004年 第1回全国グリーン・ツーリズムネットワーク水俣大会
- 2008年 子供交流プロジェクト・「農林漁家民宿お母さん百選」
(日本型展開段階における質の確保)、観光庁設置
- 2009年 グリーン・ツーリズム国際化

青年期に入ったグリーン・ツーリズム

- 実践成果の蓄積と広がり
- 実践内容の多様化と個性化
- 体験型GTの普及
- 多世代にわたった需要の拡大
- 観光政策・事業との接点・棲み分け
- 「農」的なライフスタイルの広がり

グリーン・ツーリズムとは？

都市と農村の相互補完・共生による国土の
均衡ある発展を基本目標とした、『緑豊かな農
村地域において、その
自然、文化、**人々との交流を楽しむ**
滞在型の余暇活動
(農村で楽しむゆとりある休暇)』
観光ではなく、「**歓交**」!

グリーンとは？

単に「緑」や「自然」という意味ではなく、
「**地上のすべての生命の尊重、**
資源の適正利用、あるいは
すべての生物の相互関連の認識」という**環境保**
全や**社会・文化の持続可能性の確保**
という意味も含む。→ **農村再生** (地域づくり)

ツーリズムとは？

物見遊山的観光ではなく、
様々な個性的な体験や交流を通して、
心身をリフレッシュする活動を意味し、そ
うしたライフスタイルの定着によって、
新たな複合的な農村産業の振興 お
よび確かな農村居住の定着 をめざす。

グリーン・ツーリズム理解の多様化

余暇論からの展開

- 1. **観光**振興(「体験観光」、「生活観光」、「ニューツーリズム」)
- 2. **地域**振興(交流型地域活性)
- 3. **文化**振興(「食育」、祭りの再生)
- 4. **教育**体験(「子供交流プロジェクト」)
- 5. **健康**増進(ヘルスツーリズム、各種セラピー)
- 6. **人間福祉**(安らぎ・癒し・自己発見の場)

改めて、今、グリーン・ツーリズムは？

- 日本型グリーン・ツーリズムの意義
- 量から質へ
- 運動からビジネスへ
- 点から線、そして面へ
- 行政支援から自立的ネットワークへ
- 体験交流から体感・協働・協発へ

観光事業とツーリズムの違い(1)

項目	観光事業	ツーリズム
対象	不特定多数	特定少数
時間軸	一過性、短期滞在	持続性、長期滞在
利便性	重要(一次的)	二次的
目的	収益性の一義的 pursuit	多元的地域活性化
効果	集中	分散

観光事業とツーリズムの違い(2)

項目	観光事業	ツーリズム
関係性	自己完結	ネットワーク(連携)
課題	量的拡大	質的向上
価値	経済的・商品的価値	社会的・文化的価値
本質	サービス	人間的交流(「歓交」)
特質	資本投資	資源活用
政策的意義	公共的基盤整備支援	公共的人材育成・資源活用支援

観光とツーリズムの違いは？

1. 日常性(暮らしの場)との接点
2. 地域内連携(Only one → Every one)
3. サービス → ホスピタリティ(心のおもてなし)
4. 一見客(不特定多数) → 常連客(特定少数)
5. 金儲け → 「人」儲け
6. 飽くなき投資・「身を粉にした」ビジネス
→ 「身の丈」の実践

受動的体験から能動的活動への展開

- 受動的体験から能動的活動への展開
- 自立的なツーリストの育成と受け入れ体制（「案内人」「指南役」から「世話人」へ）
- 多様な滞在活動のための基盤整備（民家、公民館、公共施設、民宿、ホテル、旅館の棲み分け）
- 質感高い滞在への展開（「極上」のバリエーション開発）
- 小規模実践者の広域的連携体制の確立（重層的ネットワークの意義）

品質評価支援システムの確立

- 「安かろう、悪かろう」体験からの脱却（定期的自主研修、全国研修の意義）
- 自己満足的経営化の脱却（地域グループによる自主研修、全国研修の意義）
- 「客観的評価」の主観化のための地ならし（新潟県の品質評価事業の意義）
- 任意加入方式の段階的評価システムの導入（「飯山方式」の意義）
- 国際的評価基準による品質評価の徹底と支援体制の確立（「飯山方式」の課題）

地域コーディネーターに求められる 資質と役割

- 行政、住民(実践者)、民間企業との**調整・連携機能**
- **実践者のネットワーク化**(地域内、地域外)
- 人材発掘と人材育成(**各種研修の企画、実施**)
- **実践主体間の連携**(インストラクター、ファシリテーター)
- 情報の**受発信とデータベース化**
- **マーケティングと交流内容の適正化**

農家民宿等における品質評価導入の背景

- (1) **規制緩和の浸透**と農家民宿、農村民泊の増加
- (2) 施設整備・管理、ホスピタリティの**研修制度の未整備**
- (3) 量の拡大から**質の確保**への転換の必要性
- (4) **顧客ニーズの多様化**と**選択可能性の拡大**

グリーン・ツーリズムにおける 宿泊施設の意義と品質評価の課題

- (1) 交流拠点機能と情報発信、連携の中核機能による各種資源の統合化
- (2) 農村宿泊施設の多様化と農家民宿の個性化
農村民泊、公共的施設、一般民宿(釣り、スキー場)、農家民宿
- (3) 小規模民宿の意義と課題
交流機能の重要性、素材の確かさ、暮らしの機微への接点、農業・農村体験の多様性

グリーン・ツーリズムにおける 宿泊施設の意義と品質評価の課題

- (4) 規制緩和の進行と品質確保の重要性: ホスピタリティ・ビジネスのプロ意識の必要性
「農泊」と農家民宿の相違: 総合的品質確保の必要性(例: Farm Stay UK)
- (5) 品質確保のための組織的評価支援システムの構築
品質向上支援制度の意義と課題、広域的、全国的ネットワークの必要性(「ツーリズム講座」)

量的拡大主義の意義と限界

入込数増加 = 観光収入の増加 ≠ 関連業者の利益分配 ≠ 税収増加 ≠ 住民還元

→ 自然環境資源の荒廃、枯渇、乱開発
↓

**適正規模の拡大の担保と資源保全・活用
(世界農業遺産価値保全を前提に)**

倫理的消費者の確保と倫理的観光振興

- 英国における1980年代末の **Tourism concern** の潮流とフェアツーリズム
- Alternative tourism の模索野中でのエコツーリズム等の展開と開発主義との葛藤
- **旅行者(消費者)の倫理観**の醸成と**旅行社の倫理的企画化**と**旅行地の倫理的対応**
- ↓
- **持続可能な「観光」振興の展開**

フェアツーリズムとは？

- ① **旅行者にとってフェア**であること: 商品価値の満足度、交流の深さ、感動的体験、
- ② **旅行社にとってフェア**であること: 顧客の質の確保、顧客満足度、リピーターの確保、旅行地の営業努力
- ③ **旅行地にとってフェア**であること: サービスの質、顧客との感動交流、リピーターの確保、確かな企画、公正公平な利益分配、コミュニティビジネスの発展

ネオ(新)オルタナティブツーリズムとは？

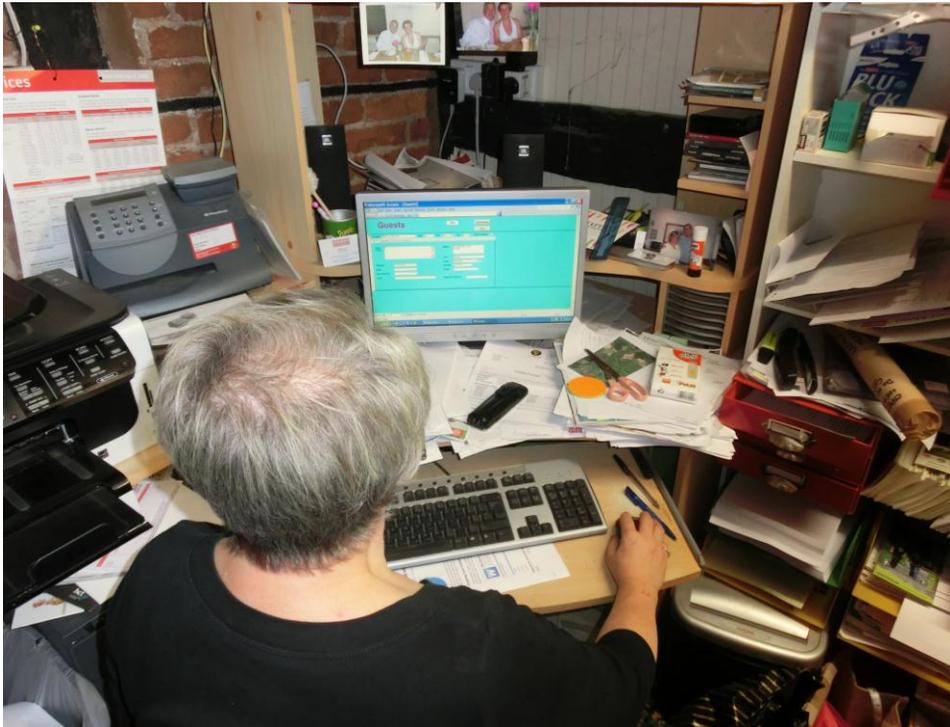
- 表層的体験型グリーン・ツーリズムの超克
→ **長期に亘る広範囲の復興支援の持続化**
- 生活復旧支援、生業復活・創造支援、福祉文化創造支援、多様な社会資本整備支援へのツーリズムの貢献
→ 外部支援者の協力・協働による「**協発的復旧・復興支援**」の意義

「おもてなし提供型観光」から 「価値共有型歓交」へ

- ゲスト(客)とホスト(宿・店・案内人)の対等性
- 「着地」(農山村)への負荷の軽減
- 「着地」(農山村)の環境改善・再生・創造
- 継続的交流人口の確保
- 「倫理的消費者」(グリーンコンシューマー)の確保 = 都市農村関係の公正・公平化
⇒ フェアツーリズム(「公正歓交」)

フェアツーリズムの課題

- 「倫理的消費者」の開拓
- 「協発的・協働型交流」
- 品質の保証と評価支援
- 体験型観光から体得型交流へ
- 確かなコーディネーターの確保



第1回アジア持続可能な観光 南海(ナメ)国際大会

日時:2012年6月18日～6月20日

テーマ:アジアのフェアツーリズム活
性化のための国際交流

参加者:日本30名、韓国約70名





第1回アジア持続可能な観光 南海国際大会共同宣言

【基本理念】

1. ゲストとホスト双方の理念や利益が公正であること。
2. 自然生態系や、歴史・文化・地域産業を保全する。
3. 持続可能な体験交流の規模や内容を調整する。
4. 質の高い交流ビジネスの展開と、確かな顧客(フェア・ツーリスト)の確保のため、「アジア教育アカデミー」(仮称)を設置する。
5. 実践者同士の相互交流を通じた情報交換と相互研鑽を行うために、国際大会を、韓日相互に毎年開催する。
6. アジア各国の文化の相違を踏まえつつ、共通の課題を相互に認識し、課題解決に向けた共同行動指針を打ち立てる。

【具体的行動指針】

1. 高齢化対策への代替案としての活性化案に資する。
2. 多世代にわたる交流につながる企画を工夫する。
3. 若年層のビジネス参入や帰農・帰村につなげる。
4. FT推進のため社会的評価を高め、起業化を推進する。
5. 韓・日相互の直接的な交流を継続的に実現する。
6. 学生相互の語学研修と現地研修で文化理解を深める。
7. アジア地域における中核的事務局組織を設置し、専従スタッフの下での各種企画を展開し、アジア各国への拡大をめざす。



第2回フェアツーリズム竹田市国際大会

日時: 2013年9月25日～27日

会場: 大分県竹田市

テーマ: 歴史・文化を今に活かし、
旅を磨き、人をつなぎ、心と体を癒
す故郷へーフェアツーリズムを活かした感動
交流による農村回帰を目指してー



初日のパネルトーク風景



庄司会長第14回国際大会山形誘致を宣言！

フェアツーリズムの定義の「生みの苦しみ」



大会共同宣言文の提案



大会共同宣言を参加者の拍手で採択



竹田市長(中央)羅孝雨(右)と固い握手



フェアツーリズム (fair tourism) とは

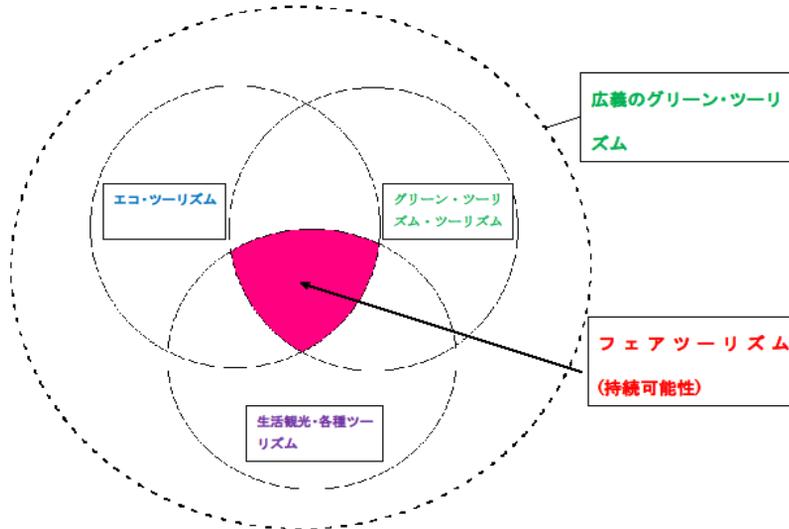
公正旅交から公正歓交へ発展を図る、新たな人間・社会関係づくりの理念

旅行者(ゲスト)と旅行受け入れ者(ホスト)と中間支援組織(ステークホルダー)が、貴重な環境や歴史的文化を保全活用し、それぞれにとっての経済的利益と社会的評価を公正に分ち合い、均衡のとれた関係を形成することである。

倫理的交流へのステップ

- 人材育成:「国際教育アカデミー」:
「フェアツーリズムコーディネーター」
- アジアフェアツアー企画の実施
- アジアフェアツーリズム推進機構の
設立
- 「民学連携型」社会貢献の展開

各種ツーリズムと観光の概念図



時代は 小・中学生(入口)から 大学生(出口)へ！

- 風評に弱い「教育旅行」(福島喜多方市)
- 「マスツーリズム」と一線を画す「心の交流」
- マック・ディズニーツーリズムと一線を画す「本物感動創造物語」
- 「SNS」(見えない糸・切れる関係)時代の「DNH」(Direct Network Hospitality)
- 「社会人基礎力」を鍛える社会的機会と場

ツーリズムビジネスの基本とは？

- 初期投資を最小化する
- 「強み」を活かし、「弱み」をなくす
- 「金儲け」より「人儲け」
- 農家ならではの**特徴**にこだわる
- 常に**客観的な評価**を自覚する
- お客との**協働**を楽しみ、活かす
- **身の丈**の実践を忘れない





「デフレ時代」の「閉塞感」と消費者志向

多様な選択肢からの**個性的選択(心のせんたく)**
ときめきは野心に変えよう。切なさは勇氣に変えよう。女の子はいつだって恋をする冒険家。誰かを好きになったなら、もう後戻りできない。二人の距離がぐっと近づく旅に出よう。さあ祝祭の海へ。

「東京ディズニーシー シーズン スペシャル オブ ハート」
(2007年2月14日JR社会広告から)

東京ディズニーランドの経営

TDR2009年度入園者数:2582万人

リピーター率:90%

←哲学:「**幸福感**」の提供

行動指針:SCSE(安全性、礼義正
しさ、「ショー」、効率性)

経営発展理念:体験価値の共創

グリーン・ツーリズムバージョンのコピーは？

多様な選択肢からの個性的選択(心のせんとく)

とまどいは行動に変えよう。切なさは勇氣に変
よう。人は誰だってやすらぎと感動を求める夢追
い人。素敵な場所とそこに暮らす誰かを好きに
なったなら、もう後戻りできない。「**こころの故郷**」
の距離がぐっと近づく旅に出よう。さああなただ
けの**秘密の田園**へ。

「グリーン・ツーリズム スペシャル オブ ハート」
(2007年9月4日東海道新幹線車内で)

キーワードは？

- 癒し
- 感動
- 交流
- 極上、真正
- 物語性
- 自己実現
- 予測不可能性
- 秘匿性 (Share the secret)
- 非日常性

農家民宿等GTの経営に必要なものは？

1. 日常生活の裏付けのある安全性
2. 人間性を基調とした礼儀正しさ
3. 飾らない魅力、さりげない演出
4. 非効率の「共感」
5. 協働・共振による価値共有・創出

協発的発展の意義

農村側の主体性と都市側の主体性の
「交響」・「協働」
による
「共振」
の結果としての
創生









非日常世界へのツーリズムからの接近 —「東日本大震災」の意味と課題—

- 『未曾有の被災』:「協発的復旧・復興支援」の意義
- 「生命保全」、「人間福祉」の復元、「家族・コミュニティの再生・創生」:GTの根幹的価値



新たな社会貢献型・地域創造型ツーリズム
「ボランティア・ツーリズム」
「リクリエーション・ツーリズム」

価値の共有・公有化の意義

今改めて問われる「公共性」

私的財産の公有化に向けた新たな価値創造

耕作「断念地」・空家・震災復興地の再生・創生

：「私有財産の**公共化・公有化**」

- 公共復興住宅と公共空間形成
- 新たなコミュニティの再生創生
- 公共ビジネスの創造

災い転じて福となす！

「都市は人間が作り、田舎は神が創った」

（18世紀・英国の詩人、ウィリアム・クーパー）



「神が創り、変えた田舎を、人間達の知恵と
連携・協力・支援で作るかえる！」

その心：「おかあさん」の思いやり

「他人事」を「**自分事**」へ！

岐阜型ツーリズムのセカンドステージ 繋ぐ、広げる、動く！

- 広域連携型実践の強み
- 公共移動手段の活用の意義
- 「動く〇〇〇〇」
- 「繋ぐ〇〇〇〇」
- 新たな感動創造物語を！

ヒューマンツーリズム岐阜

- 人の心・体・命を育み活かす
- 人が人に戻る
- 人が人と結ばれる
- 人が優しくなれる
- 人が人を大事にできる

公共・共益・共感・共福の理念を共有

- 公共鉄道・公共施設・公共空間・公共景観活用
- 利益の公平・公正な分配
- 「双務性」を担保できる「共感」
- 「人儲け」の理念から共に幸福に
- 一人のロマンが、みんなのロマンに！

「ひまわり亭」改装オープン

平成26年4月26日(土)

「食の道場」:

次世代へつなぐ食文化実践のオープンキッチン

新たな地域次世代連携拠点



食文化の継承・地域展開を通じたGT

1. 日本型GTの独自性
2. ファストフード化への対案
3. 「6次産業化」の基幹的役割
4. 「世界文化遺産」的価値
5. 「世界農業遺産」的価値
6. 命と心を繋ぐ感動創造物語

第13回全国大会へ是非ご参加を！

日時: 2015年2月12(木)・13(金)日

場所: 東洋大学(東京都文京区白山)

テーマ: 「これが日本のグリーン・ツーリズムだ！ 命を繋ぎ、心を癒し、人を活かす人間福祉への原点回帰」

第1日目(2月12日)(木)

- 13:00 開会式
- 14:00 オープニングコンサート
「命に感謝、歌でつながる奇跡の人生ドラマ」
—の瀬たかし氏出演
- 15:00 記念シンポジウム「グリーン・ツーリズム実践者大集合！ 極上の「ひともうけ」物語」
- 18:00 全国食の大祭典(秀でた食材を活かす「和の食文化」)・大交流会

第2日目(2月13日)(金)

- 9:00 分科会(5～6分科会)
- 11:00 全体会 総括討論 大会宣言採択
- 12:00 閉会 解散後 オフショナルツアー
「東京の暮らし体感ツアー」
— 都会で生きる人々との新たな交流
(アーバンツーリズム)の醍醐味 —
都内各地でのツアー企画予定！